

今後必要なことを先取りし、体験型で伝える

岐阜県自動車車体整備協同組合（岐阜車協、平野将告理事長）は、組合として今後の事故車修理に必要なことを先取りした取り組みを推進している。講習会は今後必要になることを体験型で行い、組合員に経験する機会を提供する。同時に、仕事への対価をきちんと得るためのポイントも外さない。また、個々の組合員の強みをホームページで共有し、必要があれば自由に委託できる体制も構築している。

特定整備に対応するため  
Eーミンクの経験を積む

2020年4月に始まった特定整備制度に対し、岐阜車協は施行前から対策に乗り出してきた。19年ごろから組合員に対してEーミンク（機能調整）を実際に体験する機会を設けた。組合でスキヤンツール（外部故障診断機）とEーミンクで使用するターゲットを2組用意し、組合員が持ち回りで実車を用いたEーミンクを体験した。

Eーミンクの対象はトヨタ自動車の「プリウス」「アクア」で、実際に測定した数値などを撮影して電子データとして残した。同制度は24年3月まで4年間の猶予期間が設けられた。この期間を最大限に活用し、電子制御装置整備の認証取得に向けて自社でEーミンクを行う経験を積ませた。

この体験はほとんどの組合員が行い、岐阜車協の組合員の90%以上

が同認証を取得した。さらに自社で体験したことを基に、Eーミンクの作業のイメージができた」と組合員に喜ばれた」（大原副理事長）。Eーミンクについては集合型の講習会でも、参加者が実際に作業を体験させる機会を重視する。「講師が説明して作業を見せるだけだと（学習効果が）半減してしまう」（同）ためだ。

講習会の内容もタイムリーなものを中心に掛けている。24年度は岐阜車協独自にUVパテの講習会を行った。車体の補修に使うUVパテの利用が徐々に増えつつあるものの、それが実際に使えるかどうかを作業を通じて確認した。体験重視の姿勢は、ほかの講習会も同様だ。

技能講習にも独自のアレンジ  
売り上げや利益につなげる

日本自動車車体整備協同組合連合会（日車協連）が進める高度化車体整備技能講習も、岐阜車協ならで

はこのアレンジを加える。24年度は独自の内容として、電気自動車（EV）の実車を用いてバッテリーの切断、復帰の作業を行った。

修理で部品を取り外す際やバッテリーに近い箇所の修理などを行う場合、感電防止のため作業前にバッテリーを遮断する。しかし、この作業は修理費用を算出する「指数にはない」（同）という。それでも作業に手間と時間がかかることから、技能講習では作業の手順を学ぶとともに、見積もりに計上することを受講者に呼び掛ける。

独自のアレンジを加えた技能講習を行うのは、受講することで組合員の売り上げ

や利益につなげていく狙いがある。これまで無料だった作業に対して費用が請求できることが分ければ、組合員にとってメリットは大きい。実



Eーミンクを含めた講習会は体験型を重視する

際、受講者も「お金の話になると前のめりになる」（同）という。

また、若手の組合員で構成する岐阜車協青年部会も、同様に独自の講





岐阜県自動車車体整備協同組合  
大原 孝司副理事長

—最近の事故車修理で感じていることは

「ここ1、2年で先進安全自動車(ASV)の入庫が一気に増えたと感じている。自分の会社で言えば、10台のうち3~4台がASVの修理に必要な作業を行っている。扱うための資格だけではなく、技術がないと車に触ることすら許されない時代になった」

「われわれの業界は安全、安心を担保する仕事。そこを怠ると作業が完結しない。安全などを担保できない。最初にどれだけ調べられるかが大事。昔のイメージで仕事をしてしまうと、先進安全装備の機能が働かない状態のまま納車してしまうかもしれない。もし、働いていなければ、重大な事故につながる」

—エーミングはBPIにとって欠かせない作業だ

「スキャンツールは機能によってレベルが異なる。ターゲットも多種多様になっているが、エーミングのために購入しないといけな。スキャンツールも決して安くはない。それをどこまで自社でそろえられるかがハードルになっている。そこも仕事の難しさにつながっている」

—組合員が仕事を協力し合う体制ができている

「できない作業は、同業者にアウトソーシングしている。きちんと対応していることが伝われば、外注に出していることを正直に言っても気分を害するお客様はいない。やり取りできる外注先を持つべきだ。信頼できる仲間任せすることで、安全面を担保でき、日程にもゆとりを持てる」

—講習会の考え方は

「以前は、受講者にとっては復習の内容だったり『そろそろ板金をやろうか』といったやり取りで決まっていた。しかし、それでは組合員が求めるものを外すことが多かった。私が副理事長になり、篠田和也統括委員長が就任してから執行部の考え方が変わり、少し早過ぎてもいいから、今後必要になるものを早めに仕掛ける方針に切り替えた」



技能講習にも独自の要素を加える(岐阜県自動車車体整備協同組合提供)

ホームページで強みを共有  
地域連携もリードする

岐阜車協のホームページには、組

習会を開催する。部会員のみを対象とすることもあれば、岐阜車協の組合員も参加できる形を取ることもある。24年度はボディコーティング剤に関する講習会を岐阜車協とトヨタボレーションの形で実施した。大原副理事長は「(若手経営者は)視点が違う」と話す。

組合員だけが閲覧できる名簿に個々の組合員が得意とするメーカーや主な設備などを掲載している。自社ではできない取り組みをほかの組合員に依頼できるようにしている。「いざという時に頼ることができる(同)」。例えば修理した車のエラーコードが消せない時に、その車種が得意であったり、高性能なスキャンツールを持つ組合員に委託することになる。組合として仲介は行わないものの、どこの組合員に頼ればいいのかが一

目瞭然。岐阜車協の組合員同士のネットワークが構築されている。岐阜車協では5年に1回のペースで組合員の基本的な情報を確認するヒアリングを行っている。ホームページに掲載する情報もそこで更新する。次回は25年度に行う予定で、集めたデータを組合員にフィードバックする。「どこの組合員を頼ればいいのか」という情報を提供していきたい(同)考えた。

(小野 大佐)